

## 暴力には、はっきり「No!」と言おう

小中高時代に  
体罰を受けたり、見たり  
したことはありますか？



部活の顧問に呼ばれたあと、  
鼻血を出して帰ってきた友だちがいました。

三輪さん：指導、しつけと称する子どもへの体罰、暴力は深刻な問題です。指導者が圧倒的な権力をもつことで威圧的にふるまい、子どもをコントロールしてきた文化が残る日本では、暴力にノーと言える態度や権利意識が育ちにくいのが現状です。

## みんながハッピーになるために



例えば「みんなが  
ハッピーになるレストラン」を  
つくろうとしたら、段差があるところに  
エレベーターをつくるのは  
誰の仕事？

レストランの経営者ですよ。

補助金は出ないのかな。

三輪さん：車椅子生活の方やその家族にとっては、「このレストランにエレベーターがあればいいな」と思うのは自然ですよ。障がいのある人への問題は私たちみんなの問題。障がい者差別を解消するには、障がいのある人がいることを当然の前提とした社会をつくっていく。そのような社会が経営者の意識を高め、自治体や国から補助金が出るという政治的決断にもつながるのではないのでしょうか。

## 「多数決」は、 一番いい決め方じゃない!?

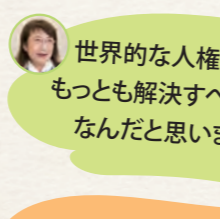


ホームルームなどで  
物事を決めるとき、  
どんな方法をとっていましたか？

多数決で決めることが多かったと思います。

三輪さん：国際的には、多数決は洗練された物事の決定方法ではありません。国連では、全会一致で合意をとる「コンセンサス」という方法が重視されます。丁寧に意見を出しあって、みんなで合意し、それで行こうと思える決定ができるのが「コンセンサス」の大きな利点。プロセスを丁寧に踏むことが少数意見に耳を傾ける気持ちを育てます。子どもの基本的な権利を国際的に保障するために定められた「子どもの権利条約」には、意見表明権がしっかりとうたわれています。相手に届くカタチで自分の意見を言う経験が、よりよい人権意識、権利意識を育てていくと思います。

## 生まれによる差別は、 日本と外国の共通の問題



世界的な人権問題で、  
もっとも解決すべき課題は  
なんだと思いますか？

人種差別や、民族の迫害など…かな。

三輪さん：「世系」にもとづく差別は世界と日本の共通の課題です。インドやネパールにはカーストと呼ばれる身分制度が存在し、社会からの扱いや差別が世代をこえて引き継がれます。日本にも同和問題と呼ばれる被差別部落の問題があります。日本も加入する「人種差別撤廃条約」に基づき、この問題を世界的課題の一つととらえ、世界的な運動と協力しながら解決しようという動きがあります。

## 訪問してみよう

横井 菜南子さん

三輪 敦子さん  
ヒューライツ大阪 所長

坂ノ上 紗華さん

山下 桜花さん

想像力を働かせ、  
相手の立場になって  
考えるようになりたい

自分の意見が  
少数派であっても、  
相手に届くかたちで  
伝えてみる

物事を決めるときは  
少数の意見にも  
耳を傾けていきたい

## ちょっとまめ知識

### 同和問題(部落差別)を知ろう

日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、日本の中の一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低位の状態を強いられ、今なお日常生活の上でさまざまな差別を受けるなど、日本固有の人権問題です。平成28年12月には、部落差別の解消を推進し、部落差別のない社会を実現することを目的とした「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。

※この記事の作成には、関西大学フリーペーパー制作団体「Lin:ku」の皆さんに協力をいただきました。



ダイバーシティ  
体験ルポ①

## 大阪で学ぶ学生が

# 「ヒューライツ大阪」を訪ねました

教えてください! 三輪 所長  
そもそも**“人権”**って、  
なんですか!?



ヒューライツ大阪 所長  
三輪 敦子さん

人権に守られているから、  
自由に考えて話せるんだ



これまで、人権について  
どう理解してきましたか？

人が平等に守られるためのもの、  
というイメージです。

三輪さん：そうですね。人は、一人の例外もなく、自由でかけがえのない存在。一人ひとりが平等に人権をもって、どんな理由によっても差別を受けることはありません。私たちが自由にものを考え、教育を受ける機会を得て、好きな仕事に就くことができるのは、人権のバリアが守ってくれているから。でも、人権のバリアが届かない立場が弱い人たちもいます。「私は差別されていないから関係ない」のではなく、自分の問題としてとらえ、社会全体で人権を守りたいですね。

## 誰もが、人として、 大切にされる世界をつくるために

「ヒューライツ大阪」は愛称で、正式な名称は「一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター」といいます。NGO(非政府組織)として国連との協議資格を取得し、人権に関する世界の動きを広く知らせ、大阪、日本、そしてアジア・太平洋地域の人権の伸長に努めています。いわば大阪に拠点を置く「国際人権情報の交流ハブ」。国や地域、文化の違いを超えて、すべての人に大切な人権を伝えるために、情報収集・調査・研究に加えて、次のようなさまざまな事業を実施しています。

知る  
学ぶ

ウェブサイトで、国際人権基準の基礎知識や人権に関わる国連・NGO・日本政府の動きなどを発信。ニュースレター「国際人権ひろば」(日本語)・「FOCUS」(英語)や出版物、教材を制作・発行しています。

利用  
する

閲覧コーナーにある所蔵資料の貸出サービス、講師派遣やパネル貸出などを実施しています。

参加  
する

定期的に、国際人権に関するテーマを中心に、講演会やセミナー、ワークショップを開催しています。

もっと知りたい人は、ウェブサイトを検索してみてください

<https://www.hurights.or.jp>

ヒューライツ大阪(一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター)  
大阪市西区西本町1-7-7 CE西本町ビル8F Tel. 06-6543-7003  
開館時間 9:30~17:30(土日祝、12/29~1/3は休館)



## ちょっとまめ知識

### 世界人権宣言を知ろう

1948年につくられた「世界人権宣言」は、普遍的な人権の原則を定めたものです。国際社会は、世界人権宣言を採択したあと、「女性差別撤廃条約」「人種差別撤廃条約」「子どもの権利条約」等、個別の人権課題に関わる条約をつくり、人権を国際的に保障する動きが大きく進みました。